

仲間の困難や願いはみんなの宝

「障害のある仲間の困難や特別な願いはみんなの宝」。障害者福祉を担う社会福祉法人の実践の中から生まれたことばです。発足から30年の節目にある埼玉県内の社会福祉法人「みぬま福祉会」の実践をみました。(岩井亜紀)

埼玉の社会福祉法人の実践

重度障害者が多く暮らす入所施設「大地」栄養剤を摂取。重度重事風景はにぎやか。個室から食堂に集まった人たちが「きょうはひつまぶしで豪華だね」などと話しながら舌鼓を打っています。その傍らで秋山拓生さん

ト状の食事をどれだけ食べたかをみて、他の仲間が職員に栄養剤の量を意見することもあるんですよ」と高橋孝雄理事長は話します。普段は支援される障害のある人が「仲間を支える側」になる瞬間です。



30周年を迎えたみぬま福祉会の実践を収めた『みぬまのチカラ』(全国障害者問題研究会出版部)

みぬま福祉会は、どんなに重い障害があっても、人間らしい暮らしの実現をめざしています。

「ここで暮らす仲間たちは、施設の中で職員の介助を得ながら仲

障害あっても人間らしい暮らしの実現めざして

間と過ごし、濃密な人間関係を築いていきます」と高橋さん。「人は青年期に、新しい家族をつくったり、自分を支える仲間との関係



入所施設「大地」では、食堂に集まり楽しく食事をします。9月、埼玉県蓮田市

を築くもの。だけど、障害がある人には難しい。私たちはその「困難」を取り除く実践をしているのです」

困難を抱えた障害者が門をたたくと、「他の仲間迷惑がかわかる」と断ることを考えるようになることがあります。

労働を保障する

「障害が重くても労働を保障する」を柱に活動する中で、1990年代初めまで行われていた缶プレスなどの決められた仕事が終わらず、個室に閉じこもる、暴れる重度の知的障害と自閉症のある人がいました。横山明子さん(41)です。

落書きをしていた横山さんに、職員がバザーのチラシに絵を描くことを依頼。これをきっかけに94年から、仕事に人を合わせるのではなく、人に合わせた仕事をみつめるようになりました。

職員は、一人ひとりの独自性を生かした表現を形にするために雰囲気づくりなどに徹し、指導・指示はしません。そこで生まれた作品を社会につなげ、お金に換えるのも職員の大事な役割です。

職員や家族が手をつなぎ、障害のある人たちを真ん中にした活動に取り組んで30年。みぬま福祉会はこのほど、これらの実践を取りまとめた『みぬまのチカラ〜ねがいと困難を宝に〜』(全国障害者問題研究会出版部)を出版しました。

高橋さんは「私たちが加盟する『きょうさ山さん』は障害者の労働権保障や発達保障をめざしています。全国に仲間がいることが支えになっている。みぬまの活動は特別なものではないかもしれません」と強調します。

カジノ推進派に審判を

ことを想定。専門医師らによる研修を受けた協力医療機関、地域の医療機関、研究班

ワクチン接種で体調異変

治療1週間を公表

厚労省

赤旗

大分県大分市

域循環による経済対策が重要と語りました。多重債務などの相談活動に取り組む大分い